

2019年9月17日

## 令和元年度第1回 海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：令和元年9月17日（火）14:00～17:00

開催場所：土木学会講堂

出席者：後藤委員長、佐々木副委員長、田島幹事長、内山、荒木、北野、川崎、高橋、有川（以上各小委員長）、山城、小竹、安田、遠藤（以上各副小委員長）加藤、渡部、坪野、片山、嶋原、原田、瀬戸口、山本、渡辺、柿沼、安田、遠藤、伴野(高川代理)（敬称略・順不同）

議事録：田島

資料：

- ・ 令和元年度第1回海岸工学委員会幹事会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint資料（資料2）

### ■議事前報告および議事録の確認

- ・ WEB公開済の前回委員会および幹事会の議事録を確認した。

### ■海岸工学論文集第66巻特集号査読について（森編集小委員長、山城副小委員長）

- ・ 登録論文数：321編（和文300編，英文21編）
- ・ 採択論文数：256編（CEJ投稿22編を含む）
- ・ 通常号からの発表1編を加え，講演会発表数は257編
- ・ CEJに加え特集号への英語論文の投稿も継続しており，2019年度は10編が投稿された。
- ・ 本論文査読時におけるB,C,D判定の際の主査の手続きと，特にC判定の論文に対する査読報告書への記載事項についてガイドライン案を作成した。次回委員会で再度ガイドラインを紹介し承認を得ることとなった。
- ・ 最終原稿にフォーマットのミスが多いため，査読報告書にも主要なフォーマットに関するチェック項目をつけることとした。
- ・ 特集号への投稿をCEJ投稿に代えることのできる制度については2年目となった。2018年度は12編の投稿があり，現在は6編が採択され掲載されている。2019年度は28編の講演会へのアブストラクト投稿があり，CEJには22編が投稿された。
- ・ CEJ投稿の制度の投稿時期の曖昧さや，CEJに投稿して不採択となった論文の扱いについて課題があることが指摘され，今後の講演会，特集号およびCEJの投稿のあり方と合わせて議論を継続することとした。

### ■海岸工学論文賞・奨励賞について

- ・ 審査方法の確認の後，審査結果の説明があり，論文賞および奨励賞3編ずつの候補が決まった。次回委員会における承認を経て受賞が決まり，講演会閉会式にて授賞式を行う。

### ■第66回海岸工学講演会準備状況について（柿沼委員）

実行委員会： 柿沼・斎田、長山(鹿児島大)、辻本(熊本大)、村上(宮崎大)、山城(九大)、瀬戸口(八千代エンジニアリング)、浅野(顧問)

日程： 2019年10月23日（水）～25日（金）

会場： かがしま県民交流センター(開場8:30)

懇親会： 城山ホテル鹿児島

後援： 国土交通省九州地方整備局、鹿児島県

- ・講演会前日の10月22日が即位礼正殿の儀(祝日)と重なったため、前日シンポジウムおよび現地見学会は実施せず、講演会1日目の午後の2セッションの枠でシンポジウム(気候変動小委員会企画)および特別招待講演会(Prof. Patrick Lynett)を実施する。

#### ■海岸工学シンポジウムについて

日時：2019年10月23日 15:00～16:30

場所：県民ホール(講演会第一会場)

タイトル：沿岸域の気候変動研究—これまでとこれから—  
プログラム

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 企画主旨
- (3) 各省庁の温暖化研究プロジェクトの整理
- (4) 「今後の我が国の沿岸分野における気候変動対応で解決すべき課題：TOP10 Questions」
- (5) 招待講演(国交省：今後の適応策取り組みの紹介)  
水国局海岸室：気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討について  
港湾局海防課：港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策
- (6) とりまとめ(これまでとこれから)・全体討議

#### ■招待講演

Prof. Patrick Lynett

Dept. Civil and Environmental Engineering, University of Southern California

日時：2019年10月23日 16:45～17:50

場所：県民ホール(講演会第一会場)

題目：Tsunami-induced Coastal Currents

司会：田中仁

#### ■第67回海岸工学講演会の開催(会場など)について

実行委員会：水谷(名大, 実行委員長), 中部地区の委員, 幹事, 教員

日程：2020年11月11日～13日

会場：じゅうろくプラザ・岐阜大学サテライトキャンパス(いずれも岐阜駅前)

- ・第4, 第5会場がやや小さいが, 一部を椅子のみのレイアウトとすることで十分な席数を確保する。
- ・現地見学について：長良川河口堰コース, 名古屋港コースの二つを計画している。
- ・懇親会は岐阜ワシントンプラザホテルを予約済み(2020年11月12日18:30～20:30)

#### ■第68回海岸工学講演会の開催地について

・過去開催地の履歴では関東の順番であるが, APAC2021との同時開催を試みることで, 過去のAPACの日本開催は関東(幕張)であったことから, 京都にて開催する方向で検討することとしたことを確認。京都におけるAPAC2021・海岸工学講演会の同時開催に向けたWGも2018年度に設置済み。

#### ■第55回水工学に関する夏期研修会(Bコース)について

日程：2019年9月9日, 10日。会場：名古屋工業大学。

主担当は海岸工学委員会, 富田小委員長。

テーマ：「伊勢湾台風60周年：高潮・高波・沿岸防災の過去・現在そして将来」

第一日(9/9)

竹見哲也(京都大)：台風・気候変動(共通セッション)

中部地整：東海ネーデルランド(共通セッション)  
愛知県：愛知県における高潮防災の取り組み  
平山克也（港湾空港技術研究所）：高波災害と対策  
第二日(9/10)  
加藤孝明（東京大学）：防災まちづくり(都市計画)(共通セッション)  
平山修久（名古屋大学）：災害ごみ(共通セッション)  
安田誠宏（関西大学）：減災アセスメント  
喜岡渉（名古屋工業大学名誉教授）：伊勢湾台風とその後の防災

- ・参加者は暫定で A コース 98 名， B コース 74 名の合計 172 名。
- ・アンケート結果(111 名)について説明があった。民間からの参加が 60%，学生が 25% だった。共通講義は好評だった。その他，講義資料の事前配布，スライド資料の配布などの希望があった。

#### ■ 2020 年度水工学夏期研修会について

- ・幹事は水工学委員会。高知県で開催することが決定。
- ・海岸工学委員会の担当は山中委員。
- ・現時点では日程・場所含め詳細は未定。決まり次第周知する予定。

#### ■ Coastal Engineering Journal について

- ・CEJ 小委員会および Editorial board の体制が変わった。T&F に出版社を変え IF が 2 を超えたことから投稿数が増えることも勘案し，査読のさらなる効率化・迅速化を目指すこととした。
- ・Special Issue of Tsunamis in Latin American Countries, guest editor: E. Mas & S.Koshimura)が現在査読中である。アブストラクト投稿 23 編→本論文の投稿は 10 編となり現在査読を行っている。2020 年 3 月に出版予定
- ・2021 年出版の special issue として Blue carbon engineering(guest editor: T. Kuwae and S. Crooks) が予定されている。アブストラクトの締切は 2019 年 9 月から延期する予定。
- ・2019 年の現時点での投稿数は 74 編(うち日本から 34 編)。過去 3 年は 113, 108, 111 編で，やや低調。
- ・海岸工学講演会，特集号と CEJ への投稿の連携について，現在の制度では CEJ editor in chief によるスクリーニングに短時間に負担が集中することとなっているため，制度の改善含め議論を継続する。

#### ■ 委員会ロゴおよび委員会 HP について(広報小委員会)

- ・2018 年度の委員会予算を活用して，海岸工学委員会のロゴとホームページの整備を進めている。
- ・ロゴが決定した。2019 年度の海岸工学講演会 DVD や，刷新するホームページにはロゴを順次掲載していく。
- ・ホームページについて，WordPress を基盤にデザインを一新し，現在の委員会ホームページのコンテンツを移行する案が示された。
- ・ホームページの更新スケジュールについて説明があった。移行作業を 9 月～11 月に実施し，新しい HP は 11 月に公開する。9 月以降に更新された情報については新しい HP には反映できないので，必要に応じて更新した幹事・委員が再度新しい HP 上で情報を更新する。

#### ■ 2019, 2020 年度の研究小委員会について

- ・以下の各小委員会・研究会から活動報告書を提出してもらい委員に事前回覧した。

ー小委員会ー

- ・減災アセスメント(2014.10～)
- ・津波作用に関する研究レビューおよび活用小委員会(2015～)
- ・水理模型実験における地盤材料の取り扱い方法に関する研究小委員会(2016～)
- ・沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会(2017～)

ー研究会ー

- ・波動モデル
- ・地域研究活性化連絡会

・各小委員会での研究活動に加え、出版物・報告書等の成果物の準備状況について確認した。

■その他

(1)APAC 2019 について(2019 9/25～9/28@ハノイ)

- ・アブストラクト投稿数 335 編 → 322 編採択
- ・フルペーパー投稿数 230 編(15 カ国. うち 66 編が日本から)
- ・フルペーパーの第一段査読で 46 編が採択, 183 編が再査読, 1 編が不採択となった。
- ・proceedings は Springer Nature から出版(Scopus index)
- ・APAC Council & ISC meeting で APAC2021 の京都開催を提案し承認を得る。

(2) JSCE-CCES Joint Symposium of Civil Engineering について

・土木学会(JSCE)国際センターと中国土木工程学会(CCES)が共催する JSCE-CCES Joint Symposium of Civil Engineering について, 土木学会副会長、国際センター長 上田多門 先生から協力要請があり, 2016, 2018 に続く第3回として, 2020 年に日本で開催する際には, 海岸工学ならびに水工学を主なテーマとするため, 海岸工学委員会からも広く講演者の参加を募る協力をする事とした。

(3)ICCE2024 について

- ・ICCE2024 の仙台への招致活動を目的とする WG を設置した。主査は田中教授(東北大), 世話人は越村副委員長, そのほかのメンバーは佐藤相談役, 岡安委員長, 後藤副委員長, 今村教授(東北大), 田島幹事長, 有働准教授(東北大), 栗山善昭(港湾空港技術研究所), 渡部委員兼幹事(北大), 森小委員長(京大), 志村智也(京大), 澁谷容子(東洋建設), 伴野雅之(港湾空港技術研究所), 木原直人(電力中央研究所)
- ・2019 年 9 月 17 日に第二回委員会を実施し, 準備状況などを確認した。

(4) 講演会&論文集(特集号)の今後の方針について

- ・投稿数が過去 4 年で 382→362→312→321 と推移している。
- ・講演会の充実(発表数, 参加者数)と特集号の質の維持の両立が重要。
- ・CEJ への投稿を特集号本論文への投稿に代える制度を導入して 2 年経過した。CEJ への投稿制度を活用した論文の採択率は現時点で 5 割程度である。現行制度では CEJ スクリーニングの負担が大きいこと, 講演会発表採否の独自性が保たれづらいこと, CEJ を不採択となった論文のフォロー(特集号への再投稿の機会の提供など)などの課題があげられた。
- ・講演会のさらなる活性化(最新・最先端の研究が講演会で発表されること)も鑑み, 講演会発表, 特集号本論文査読, CEJ への投稿, さらに他の英文ジャーナルに投稿した論文の講演会発表の可否も含めた制度の改正案について議論した。
- ・次回委員会において, 幹事会における議論を踏まえた改正案を提示し, 議論を継続することとした。

以上。